

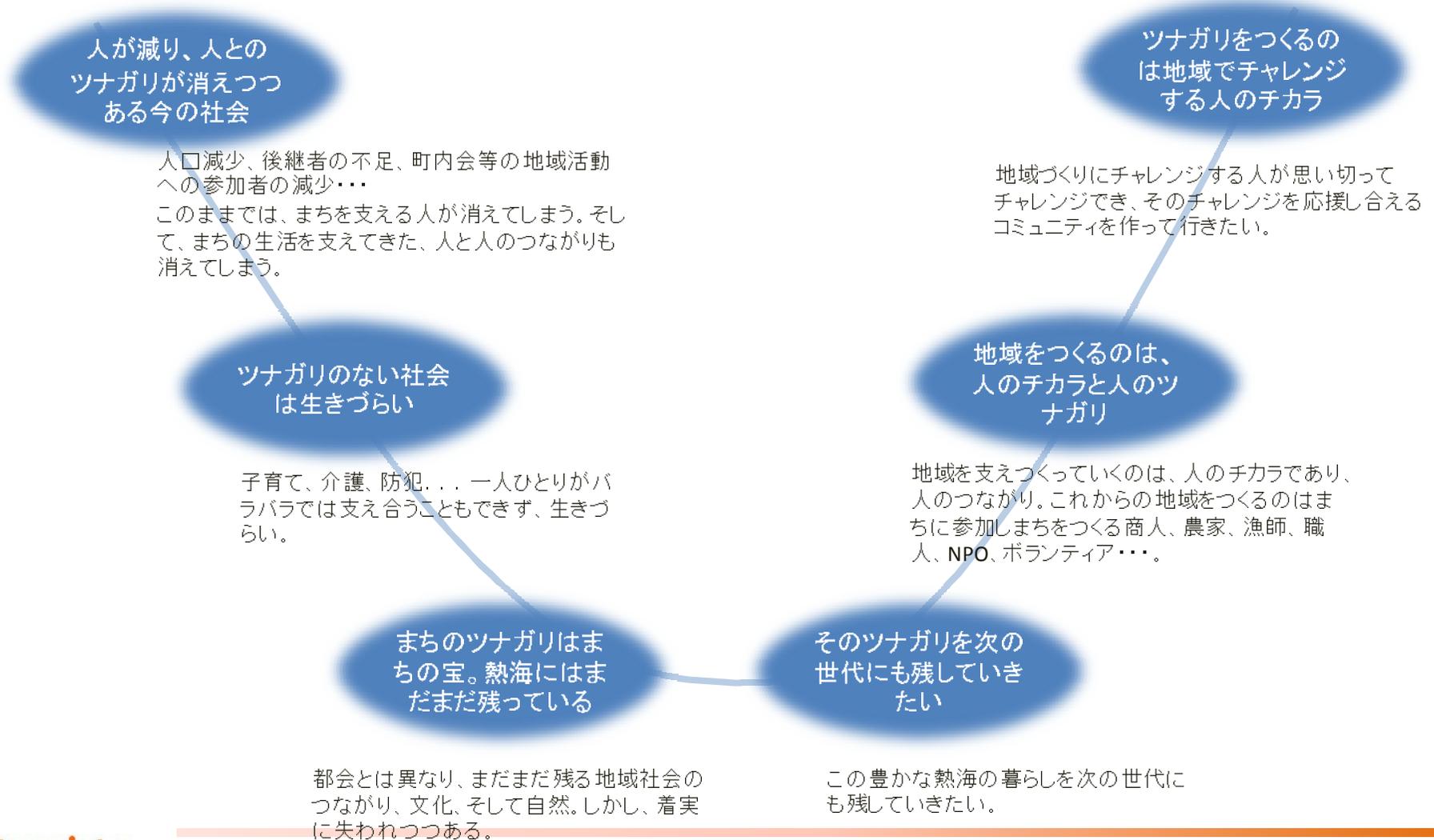


熱海温泉玉手箱 概要

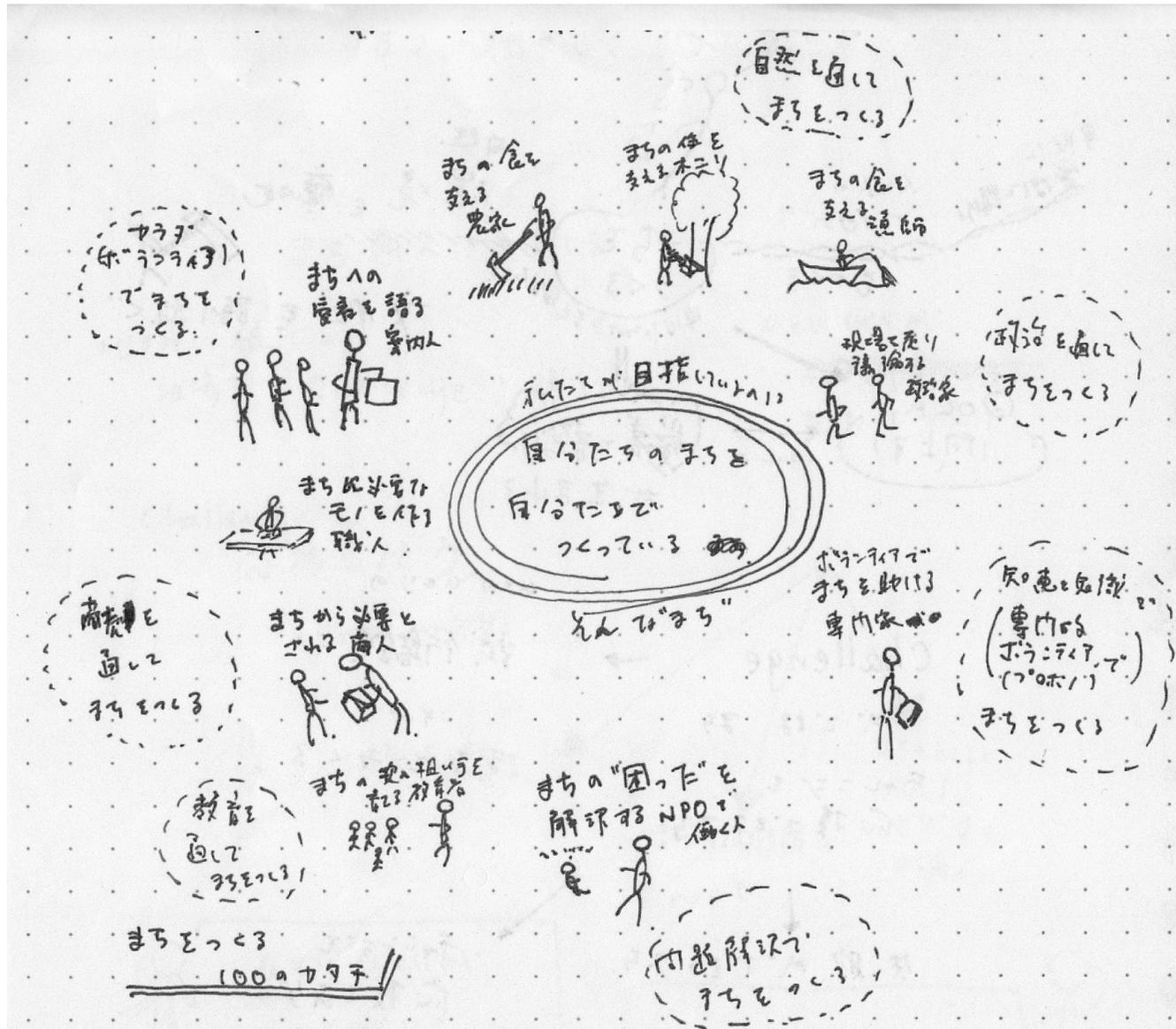


atamista の理念

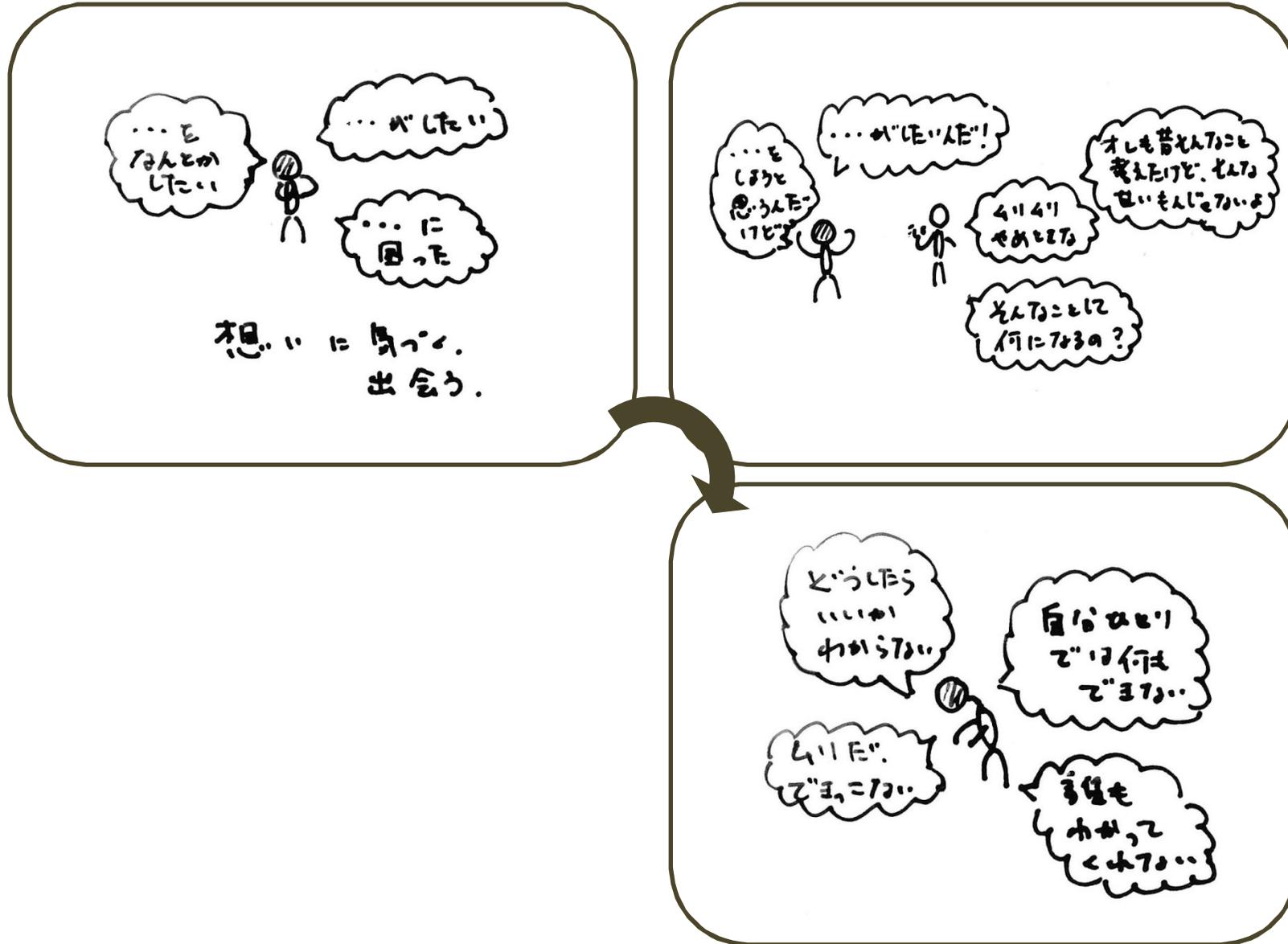
- 地域のツナガリが薄れてしまっていること(ソーシャルキャピタル=社会関係資本の喪失)が、地域に次代を担う存在が育っていないこと、私たちを生きづらくしている。
- 100年後も豊かな暮らしができるまちをつくるために、人を育て、人のツナガリを再生(再構築)していきたい。



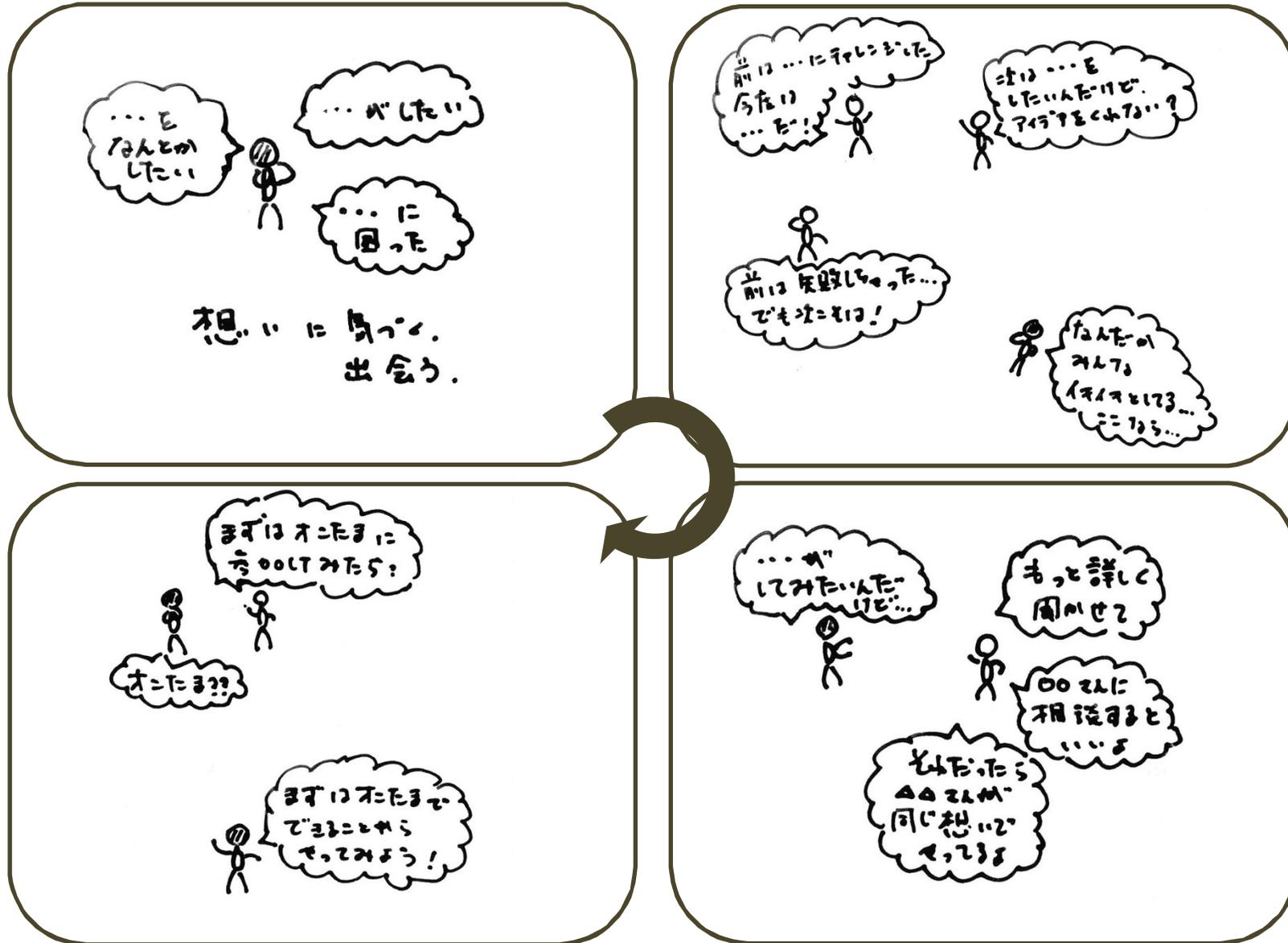
atamista ビジョン



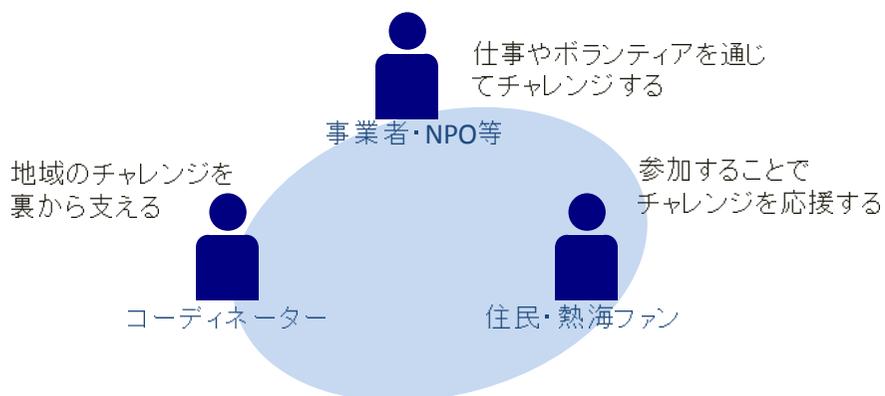
オンたまストーリー 現状



オンたまストーリー 目指す姿



熱海温泉玉手箱のコミュニティとチャレンジパートナー



オンたまコミュニティが応援するチャレンジとチャレンジパートナー

atamista の理念に賛同し、地域に根をはり、地域に根付いて活動・事業を推進する団体(企業・商店・NPO等)・個人のチャレンジを応援します。

オンたまが求めるパートナーは、健康または文化または自然環境のテーマで地域づくりや事業を展開する事業者。そんなパートナーのチャレンジに敬意を持ち、同じ目線でチャレンジを応援・協働していきます。

また、人のツナガリをつくり、次代を担う存在を育成していくことにも共に取り組んでいきます。

チャレンジを支え合うコミュニティ

チャレンジを支え合うコミュニティにより、すべての人が自分たちのまちを自分たちでつくるまちに向かって熱海温泉玉手箱事業を行います。

チャレンジを支え合うコミュニティをつくることで、地域においてチャレンジしやすい環境が生まれ、新たに多くのチャレンジが生まれることを目指しています。

HEALTH (健康)

ココロとカラダの健康をつくる
(QOLの向上)

CULTURE (文化)

地域の歴史文化・生活文化を発掘し
磨き上げる(文化資本の向上)

Eco (自然環境)

自然を耕し、持続可能なカタチに再生
する(自然資本の向上)

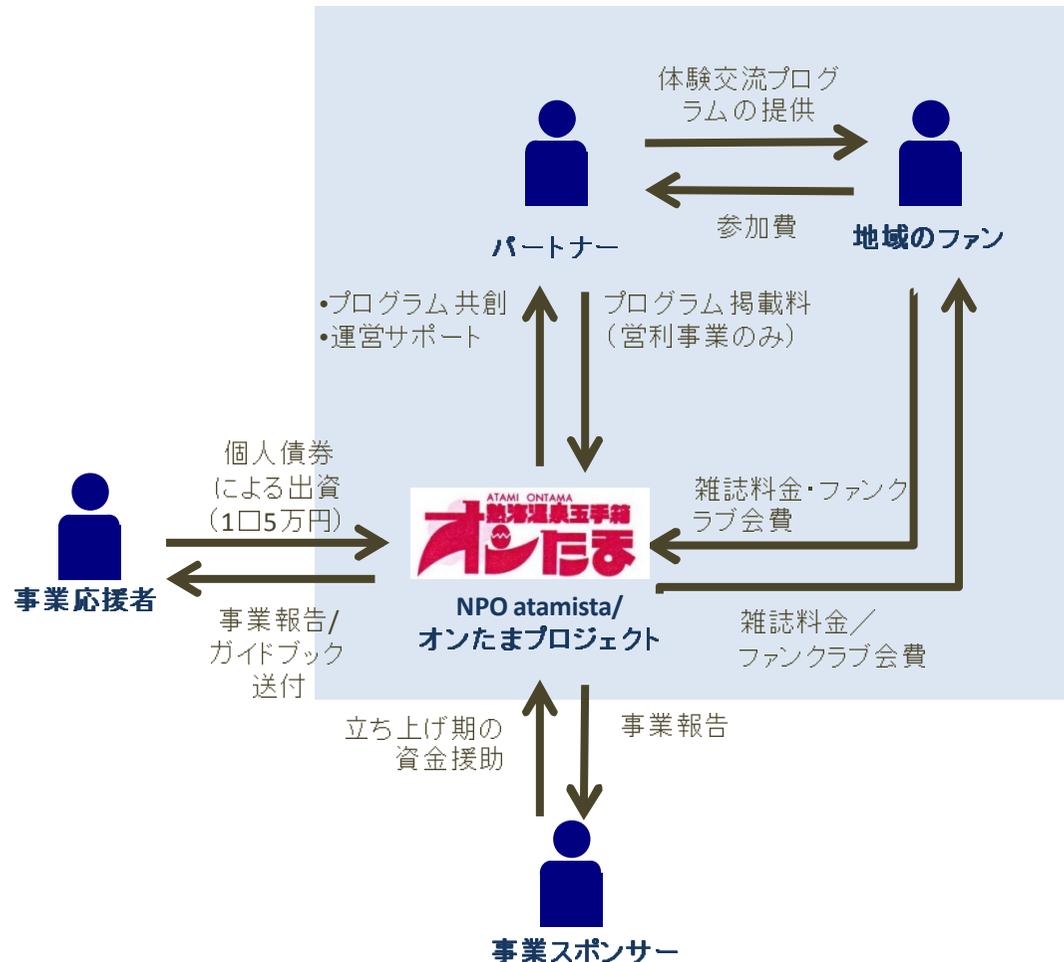
COMMUNITY (つながり)

商売、子育て、防犯... 地域のあらゆる生活を支える人と人のつながりを再生する(ソーシャル・キャピタルの向上)

HUMAN (人)

商売、NPO、ボランティア... まちに根差して、まちの次代を担う人を育てる(人財の育成)

熱海温泉玉手箱 ビジネスモデル



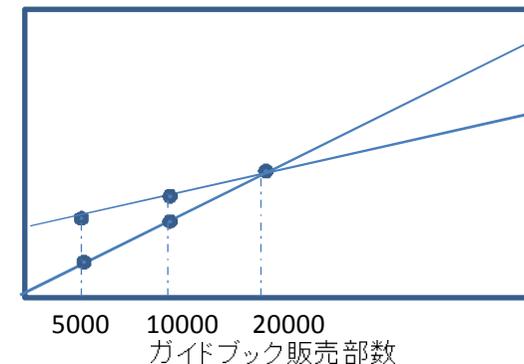
オンたまによる地域づくりを支える仕組み

まちを愛する人が「まちをつくる」活動を支える仕組みにより、地域づくりを持続可能なビジネスとする。

オンたまガイドブックを熱海のコアなファンが読みたくなる、ちょっとセンスのいい「熱海の日常を発信する雑誌」とし、有料にして販売する。

事業として自立する形を目指すが、立ち上げ初期には助成金や企業・団体からの協賛、105万円の個人債券による個人出資により資金を調達する。

損益分岐点(イメージ)



熱海温泉玉手箱 事業の推進体制(会議体)

- 第3回のオンたまは現在の形で推進するが、現状の進め方には課題が出てきたため、4回以降は再度形を変え、プロジェクト会議とパートナー会議の2本立てで推進する。
- プロジェクト会議では主に各パートナーの情報共有や体験交流プログラムの企画等を中心に行い、プロジェクト会議ではオンたま全体の事業推進を行う。

